
天竜川高森かわまちづくり賑わい拠点整備

基本構想

令和5年3月
長野県 高森町

目次

1. 現状把握と整理 ～かわまちづくり計画に関連する高森町のこれまでの取り組みについて～	
1-1. 高森町における JR 下平駅周辺地域と計画対象地の役割について -----	2
1-2. 計画に関連する高森町のこれまでの取り組みについて -----	3
2. かわまちづくり計画方針	
2-1. 計画方針 -----	7
2-2. 事業スキーム及び事業内容 -----	8
3. かわまちづくり拠点の配置計画（ランドスケープ）について	
3-1. 拠点施設の配置計画について-----	11
3-2. 全体計画（案）-----	12
3-3. 配置計画（案）-----	13
3-4. ランドスケープイメージ -----	14
3-5. 天竜川環境と風景の保全に適した植物等について -----	15
4. 関連計画（MIZBEステーション整備計画）について	
4-1. 山吹地区MIZBEステーションの概要 -----	17
4-2. MIZBEステーションにおける水防センターの役割について -----	18
4-3. 緊急時の利用計画について -----	19
5. 供用開始後の利活用イメージと整備スケジュール	
5-1. 供用開始後の利用イメージパス -----	21
5-2. 供用開始までの整備スケジュール（案）-----	22

1. 現状把握と整理

～かわまちづくり計画に関連する高森町のこれまでの取り組みについて～

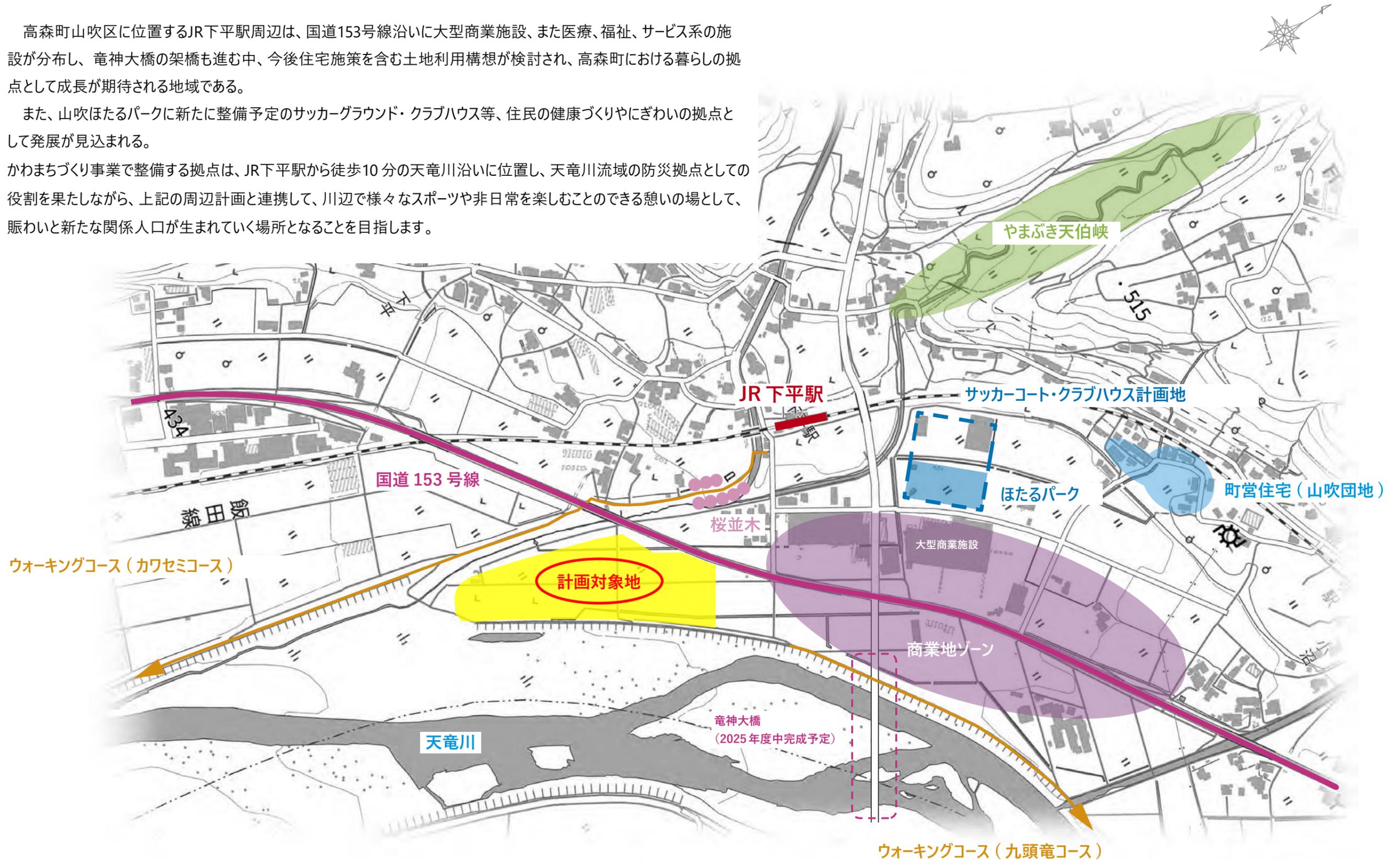
1. 現状把握と整理

1-1. 高森町における JR 下平駅周辺地域と計画対象地の役割について

高森町山吹区に位置するJR下平駅周辺は、国道153号線沿いに大型商業施設、また医療、福祉、サービス系の施設が分布し、竜神大橋の架橋も進む中、今後住宅施策を含む土地利用構想が検討され、高森町における暮らしの拠点として成長が期待される地域である。

また、山吹ほたるパークに新たに整備予定のサッカーグラウンド・クラブハウス等、住民の健康づくりやにぎわいの拠点として発展が見込まれる。

かわまちづくり事業で整備する拠点は、JR下平駅から徒歩10分の天竜川沿いに位置し、天竜川流域の防災拠点としての役割を果たしながら、上記の周辺計画と連携して、川辺で様々なスポーツや非日常を楽しむことのできる憩いの場として、賑わいと新たな関係人口が生まれていく場所となることを目指します。



1. 現状把握と整理

1-2. 計画に関連する高森町のこれまでの取り組みについて

天竜川高森かわまちづくりにつながる高森町のこれまでの取り組みと関連計画について、整理する。

1. 天竜川水系河川整備計画（平成 21 年）

中部地方整備局が策定した『天竜川水系河川整備計画』では、「河川環境の整備と保全に関する事項」として「1. 河川環境の整備と保全」、「2. 良好な景観の維持・形成」、「3. 人と川との豊かなふれあいの増進」をあげており、具体的に、水辺景観の維持・形成に努めることや、伝統行事やイベント、スポーツ等に利用できる拠点整備、カーヌーラフティングの発着施設の整備、安全に水辺に近づける河岸等の整備、遊歩道・サイクリング道等の河川空間整備を行うこととしている。

2. 高森町第 6 次振興総合計画「まちづくりプラン」(平成 26 年～令和元年)

『高森町第 6 次振興総合計画「まちづくりプラン」』では「つなぎ・つながる～この先の高森町へ～」を将来像にかかげ、支えあい、高めあう、笑顔のたえない健康な町をつくり、暮らし継いでいくために、まちづくりの分野を 8 つの「政策」に分け、それを実現するための手段として、21 の「施策」を体系づけている。このうち、特に「かわまちづくり」に関連する政策として以下が挙げられている。

政策 A「結び、つないで、みんなで動かすまちづくり」

子育て・リニア・アリーナ・かわまちづくりの 4 つの要素について、役場内の部署を超えたプロジェクトを設置し横断的な取り組みを進めることとしている。また、高森町で育った人がふるさとに愛着を感じてもらえる素地を充実することとしている。

政策 B「子どもが健やかに生き生きと育つまち」

子どもが豊かな人間性・生きる力を持った次世代の親として成長するための学習機会を設けていくこととしている。

政策 C「学びつながり集うまち」

長野国体開催に伴う、天竜川沿いの防災センター及び親水施設の建設について進めることを重点に位置づけている。また、誰もが気軽に参加できるようなニュースポーツの普及を図ること、健康づくりを推進する事業課との連携を図ることとしている。さらに、町民には生涯スポーツへの参加とスポーツを通じた交流促進が期待されている。

政策 D「健康いきいき、支え合いのまち」

健康ウォーキングの普及を図ることとしている。

政策 E「多彩な産業でつながる活力と魅力あふれるまち」

リニア中央新幹線の開業後にあわせて、観光面などでも新たな産業形成を進めることとしている。

政策 F「自然と暮らしが調和した美しい景観のまち」

景観計画の推進を位置づけており、天竜川は町の重要な景観資源となっている。

政策 G「安全に安心して暮らせるまちへ」

3. 若手職員まちづくりプロジェクト（平成 30 年度～）

平成 30 年度より、若手職員による 3 つのプロジェクトが始動した。これらのプロジェクトは「川」、「段丘林」、「農地」という町内の地域資源を活かしながら課題解決を図るもので、未来のまちづくりについて若手職員自らが検討を行った。

1. パノラマ農園プロジェクト

遊休荒廃地などが進む地域を中心に、課題解決のひとつの手段として、観光農業への取り組みを検討するプロジェクト。パノラマ観光農園構想では「まるごと農園観光」を目標に、平成 29 年にオープンした『パノラマ農園』を滞在型の農業公園として、農園全体をまるごと体感（観光）できる場所とすることを目指し、地元地域の方と様々な検討や取り組みを進めている。

2. 段丘林プロジェクト

高森町の魅力のひとつである「段丘林」が抱える課題を解決し、「美しい段丘林」の実現を目指して「活かす」「魅せる」ための整備方法などを検討するプロジェクト。

3. かわまちづくりプロジェクト

町内を流れる天竜川を活かし、町民の交流の活性化や、交流人口の増加を図るための整備方法などを検討するプロジェクト。上位・関連計画における天竜川の位置づけや、リニア中央新幹線開通等によって今後期待される交通インフラの充実、高森町の川遊び・カーヌーのまちの歴史などから、かわまちづくりによる地域活性化の可能性が検討された。

1. 現状把握と整理

4. かわまちプロジェクトからの提案

まちづくりプロジェクトの一つである、かわまちプロジェクトにより、拠点のコンセプトを「リバービーチリゾート」とする「かわまちづくり構想」が作成された。

若手プロジェクトによる提案「かわまちづくり構想」

利用対象：18（若者）～40（子育て世代）歳 + こども、県外からの来訪者

- ・外からの人でにぎわう場所とし、地元の人と一緒に楽しめる場所とする。
- ・若い世代が楽しめる場所とすることで、若い世代が盛り上がり地域に活気を生み出す場所にする。
- ・あったかてらすの次のステップで遊ぶことができ、のびのびと子育てできる地域を目指す。
- ・外からの目線で南信州を知ってもらい、地域の新たな魅力を見出してもらおう。
- ・南信州を気に入ってもらい、移住のきっかけの場所にする。

整備方針：川の行楽地「リバービーチリゾート」

- ・「川辺の非日常空間」をイメージに、アジアリゾート風の施設とする。
- ・周辺にはない雰囲気施設の施設をめざし、ここに来ないと味わえない非日常の空間をつくる。
- ・写真映えする整備を行い、インターネットでの話題性をねらう。
- ・地域の外（都会）から人が集まり、民間運営によるお金が落ちる商業施設にする。

整備目標：年間来場者数 30 万人（約 800 人 / 日）

- ・年間 30 万人の来場を目標とし、うち 10 万人は毎年訪れてくれるリピーターにする。
- ・多様な人が地域づくりに参画できる場所とし、関係人口を増やす。

5. 天竜川かわまちづくり協議会

若手職員まちづくりプロジェクトによる「かわまちづくりプロジェクト」の発足や、「2027 年長野国体のカヌー競技会場の内定」等、天竜川を活用した“まちづくり”の機運が高まったことをきっかけに、平成 30 年 4 月に、町内の関係団体や地区住民、事業者などを中心とした構成により、“天竜川かわまちづくり協議会”が設立され、下記の組織体系によって協議を重ね、完成した「天竜川高森かわまちづくり計画」をR2年3月に国土交通省に申請し、「かわまちづくり支援制度」に登録された。

天竜川かわまちづくり協議会（事務局：建設課）

構成員

- ・町議会議員
- ・高森町商工会
- ・たかもりカヌークラブ
- ・駒場河原商業店舗関係者
- ・区関係者
- ・高森町消防団
- ・子育て中のお母さん
- ・飯田広域消防

オブザーバー

- ・天竜川上流河川事務所

高森町かわまちプロジェクト※令和元年度まで

⇔
連携

河川管理者

天竜川上流河川事務所

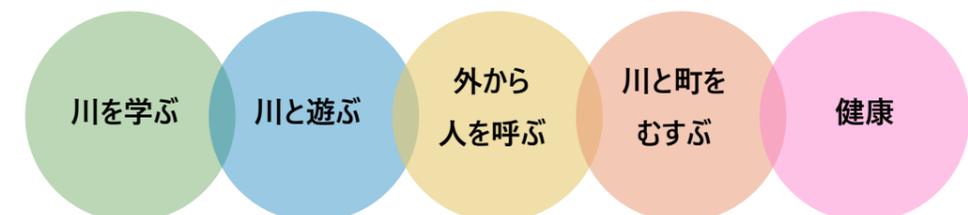
⇔
連携

利用団体

出店者・事業者等

6. 高森町かわまちづくりマスタープラン（令和元年度）

かわまちづくりプロジェクトチーム・天竜川かわまちづくり協議会での議論をもとに、令和元年度に策定された高森かわまちづくりマスタープランにおいて、かわまちづくりで目指す5つの基本方針と「天竜川スポーツパーク」というコンセプトが整理された。



7. 高森町第7次振興総合計画「まちづくりプラン」(令和2年～令和11年)

『高森町第7次振興総合計画「まちづくりプラン」』では、『なりたい「あなた」に会えるまち～日本一のしあわせタウン高森～』を将来像にかかげ、その実現のため、目標人口を設定(2045年に11,200人)し、目標人口を達成するための重要項目を5項目設定。さらに、重要項目を実現するため、各項目で重要視する取り組みを3項目選択(チャレンジ3)し、目標を明確にしている。また、チャレンジ3を通じて、将来像を実現するために、11の分野に19の施策を体系づけている。このうち、特に“かわまちづくり”に関連する重要項目・チャレンジ3として、以下を挙げている。

「子どもの笑顔が輝くまち」

子どもの笑顔があふれることで、まちに活気が生まれます。

子どもたちがなりたい自分を見つけること、地域を好きになることを目指します。

－自己実現できる－

生活が充実していることで、生き活きとした日々を送り、自分のありたい姿を実現できます。

－将来の夢が描ける－

目指す夢を持つことで、自分がなりたい姿を具体的にイメージできます。

「大人の充実が満ちるまち」

働き世代が元気であり、生活が充実することで、まちに活気があふれます。

子ども時代に地域に愛着があることで、学校卒業後にこの地域に帰ることを目指します。当地域と都市部を繋いだ多様な働き方や関わり方の選択肢を拡充します。

－自己実現できる－

生活が充実していることで、生き活きとした日々を送り、自分のありたい姿を実現できます。

－人とのつながり－

人とのつながりがあることで生活が充実して豊かになります。

－働く場所がある－

働くことで収入が得られ、生活基盤を整えられます。

「シニアが益々成熟するまち」

シニアが元気なことで、地域が次の世代につながり、子どもに地域の文化や民俗芸能を伝えたり、コミュニティに参加したりすることでやりがいを感じ、地域の良さを次代に引き継ぐことを目指します。

－自己実現できる－

生活が充実していることで、生き活きとした日々を送り、自分のありたい姿を実現できます。

「多様性のあるまち」

魅力的なまちを創りタウンプロモーションに力を入れることで、まちと繋がる関係人口を増やします。プロジェクト(かわまち・段丘林・パノラマ農園等)の活用等により、新たな人づくりや魅力づくりを展開します。

－関係人口が増える－

高森町に関わる人が増えることで、人と人とのつながりが深まり、まちが元気になります。

「成長するまち」

住みやすいまちであるために利便性の向上に取り組みます。防災減災の取り組みを進めることで、安心して暮らせるまちを目指します。

－安心できる防災・減災－

災害の不安が無く安心して暮らせることで、住みやすいまちになります。

8. 将来の担い手となり得る事業者の選定(令和3年)

「水辺を活用した高森町の新たな賑わいの創出に向けた拠点整備を検討・建設、運営していく上で、将来の担い手となり得る事業者を募集し、共に整備計画を立て、運営方法を検討していくことにより、持続可能な賑わい拠点を「目指す」ことを目的に、事業提案の公募型プロポーザルを実施した。

【南信州高森町 かわまちづくりプロジェクト】～たかもり川の駅。水と火の公園。～を提案した 株式会社のみものが、選定された。

(株)のみもの

設立	2016年5月26日	資本金	1,000万円
代表取締役	壬生 裕文(高森町出身)	本社所在地	東京都豊島区池袋2-23-3
事業内容	飲食店の企画・経営及び運営 生鮮食品、レトルト食品、チルド食品等食品全般の製造、卸、加工、販売、及び輸出入		

2. かわまちづくり計画方針

2.かわまちづくり計画方針

2-1. 計画方針

これまでの取り組みを踏まえ、かわまちづくり協議会での意見交換、先例事例の視察、関連各所との意見交換を行い、かわまちづくりの計画方針を下記にまとめる。

防災拠点として

天竜川の防災拠点として必要な、災害時用資材置き場、ヘリポート、水防センターの機能も持った拠点施設等を整備します。災害時には、拠点施設と公園内の広場が支援のために利用されます。

資材置場と公園の間を通る園内道路は、必要な資材量を満たしながら、公園の広場やビーチバレーコートを設置に必要な奥行きを確保し、多様な場所をつくるため、緩やかなカーブを描いた形状とします。

スポーツと健康づくりの拠点として

国スポで開催が決定しているカヌーとビーチバレーの2競技はもとより、スケートボード、BMX、ボルダリング、ダンスなどの昨今若年層を中心に人気が高まっている新ジャンルのスポーツが楽しめる施設を設けます。併せて、散策、サイクリング、ペタンク、健康囲碁・健康将棋、ヨガ、太極拳など、年齢を問わない健康づくりが行える場所としても機能させていきたいと考えます。

水に触れ、学ぶ場所として

田沢川の合流地点に、水に触れることのできる親水広場をつくります。遊び場としてだけでなく、天竜川の特長や水難の危険性について、水辺の生き物の観察、カヌーの初心者の練習等、水に関する学びの場所とします。

食と火に集う場所として

南信州の食文化を、公園のにぎわい創出の中心として位置づけ、地元の方、観光客の方、それぞれに喜ばれる場所にします。また調理にも使う火を、人々の集う場所として、公園内にファイヤーピットのような形で設け、冬場や夜間にも訪れたい公園を目指します。

誰もが安心して来園できる公園として

拠点施設には、水防センターとしての機能と、レストラン、ショップ、広い軒下空間、トイレ、シャワールーム、更衣室等を設け、様々な目的の方が安心して来園できる多機能な空間として整備します。南側にも軒下空間のある休憩所とトイレを設けます。原っぱや丘の周りには、小さな丘を設け、所々に植わった木立が生む影の下で休憩したり、川や公園の風景を眺めることのできる場所をつくります。

天竜川環境保全に寄与する公園として

園内の草地には、天竜川に自生する野草や野花を積極的に配植することによって、天竜川環境と風景の保全に寄与します。公園内は、高森町の棚田や畑、あぜ道を思わせるようなランドスケープをつくり、水の流れと呼応する緩やかな通路を設けます。通路脇には、季節の花々や野草が広がる草地をつくり、散歩するだけで楽しい公園とします。

2.かわまちづくり計画方針

2-2事業スキーム及び事業内容

高森町の賑わい創出のための事業構想についてまとめる。今後も社会実験等を重ねニーズを把握し、南信州を代表する賑わいの拠点となり得るための事業構想を具体化していきます。

「アウトドアで健康づくり」がテーマ

世代を問わず利用していただけるよう、多種多様な施設を用意します。アイデアとして、カヌーコース、スケボーパーク、オートキャンプ場、サウナ、BBQサイト、ボルダリング、ビーチスポーツコート、パタンク、散策コース、サイクリングコース、卓球台、健康麻雀、健康チェス、囲碁 & 将棋の縁台、ヨガ、ピラティス、太極拳、ラジオ体操。さらには盛り土や草地を活用した子供達のための「わんぱく広場」。田沢川と天竜川の合流点につくる「親水広場」などです。

「南信州のイベントのメッカたる」が目標

「地域の伝統行事の継承」、「新時代に対応したイベントの創造」この二つをテーマとして、南信州のイベントのメッカとして認知され、関係人口の大幅な増加による地域の活性化に繋げていく場所とします。イベントプロデューサーとの連携を行い、様々なジャンルのイベントを通年で展開していきます。

地域の伝統行事の継承は、ほたるまつり、灯籠流し、花火大会、全日本天竜川カヌー競技大会、出初式など

新たに取り組むイベントとして、各種フードフェス、音楽イベント、芸術祭、果物狩りと特産品フェア、市田柿まつり、新生児記念植樹祭などに取り組んでいきます。

イベントアイデアの一部をジャンルごとにリストアップしてみました。

- | | | |
|---------|---|---|
| フードフェス系 | 音 | ●各種果物狩り●紅葉狩りと秋の収穫祭●市田柿祭り●南信州ラムヤキニク祭り |
| 楽芸術系 | | ●南信州真夏のジャズフェスティバル●天竜川写真コンテスト |
| 消防防災系 | | ●どんど焼きと出初式防災フェス●消防フェス●年の瀬火の用心とイルミネーション |
| 学び系 | | ●新生児誕生記念植樹●専門家主催の川を学ぶ勉強会 |
| 親水系 | | ●南信州高森町天竜川 川開き |
| スポーツ健康系 | | ●全日本天竜川カヌー競技大会●ビーチバレー大会●ビーチサッカー大会●南信州スケボー大会 |
| 伝統行事継承系 | | ●灯籠流しとランタンフェスティバル●桜祭り●ほたるまつり●花火大会 |

2.かわまちづくり計画方針

事業スキーム及び事業内容

ヤキニクコーナーとカフェ&レストランの2本柱

飲食業態の目玉は何と言っても「ヤキニク」。高森町周辺の南信州独特の食文化である羊の焼き肉を、現代風にアップデートした「ヤキニク」を公園の名物料理に創り上げます。古き良き伝統を大切にしながらも、肉のカットの仕方、肉の加工方法、調理（火入れ）方法、提供スタイル、タレの味、サイドメニューなど全てにおいて特徴的なものに仕上げ、地元の方のみならず県内外からの観光客のみなさんにも喜んでもらえる場所とします。類似施設でよく目にする BBQではなく敢えて「ヤキニク」とすることで差別化を図りたいと思います。

複合棟内に予定しているカフェ&レストランは、古き良き「昭和のドライブイン」をモチーフに、朝食あり、ランチあり、カフェあり、晩御飯ありの多様なニーズに応える総合飲食業態で、流行りの装飾デザインやトレンドフードをできるだけ避けて、普遍性のある定番料理を提供したいと思います。

市田柿を使った各種商品の加工直売、新しいスタイルの産直、生鮮食品&惣菜の3カテゴリー

市田柿を使った各種商品の加工場兼直売所をポップアップで展開する場所とします。市田柿はその品質と歴史的背景において群を抜いており、この財産を有効に活用していく場所とします。各種商品の加工場運営や新商品の開発を地元の生産者と連携して進めていきます。

高森町周辺は、年間を通じて青果物が生産されています。地元の方にとってはありふれた風景が外からの観光客にとっては貴重な品々であり、鮮度、価格設定、ディスプレイ、広報活動など全てにおいて長続きする販売を生産者との強い連携でおこなっていきます。

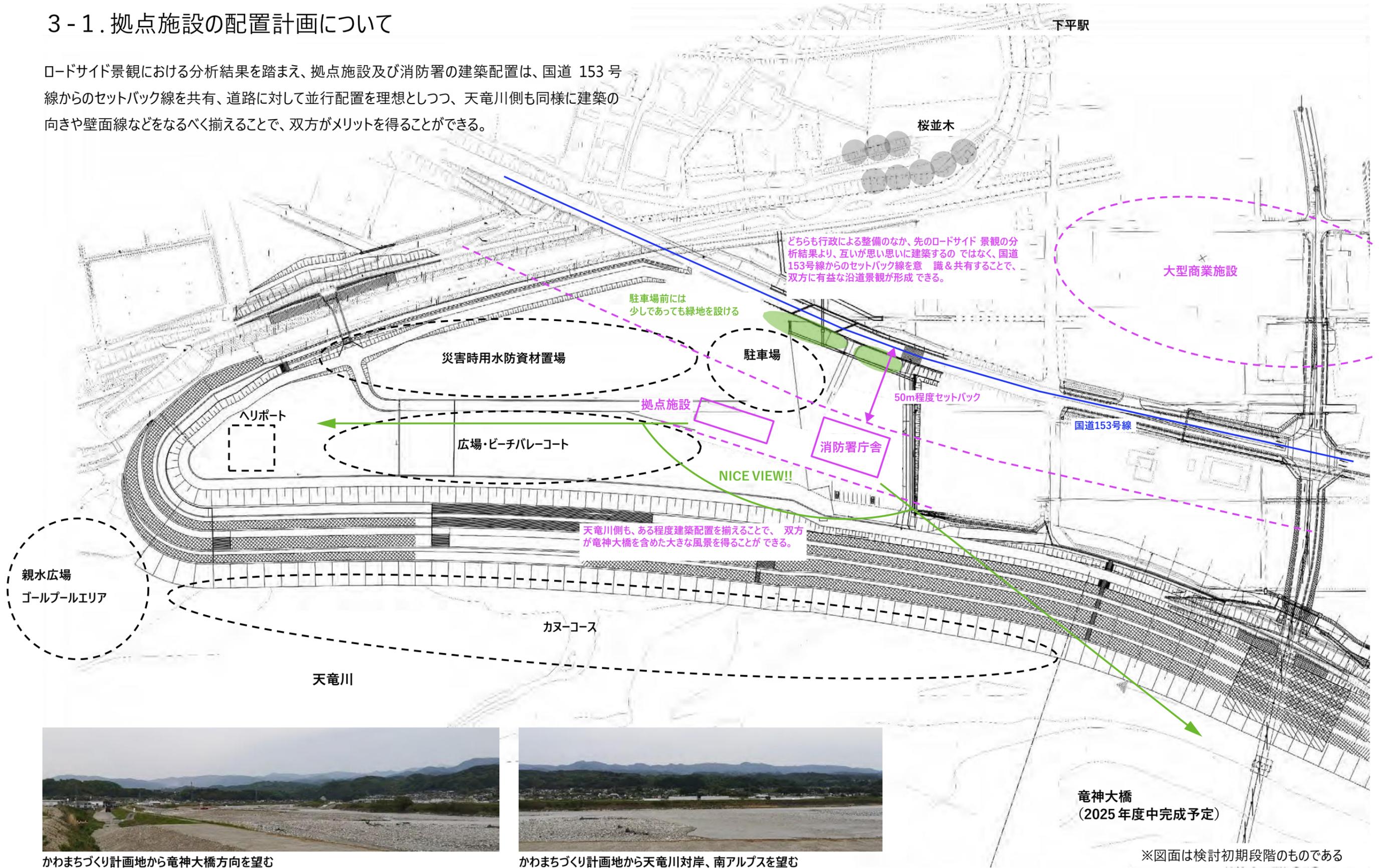
地元の方にご利用いただくために生鮮食品と惣菜をラインナップします。これにより生活に密着した施設になると考えています。

3. かわまちづくり拠点の配置計画（ランドスケープ）について

3. かわまちづくり拠点の配置計画（ランドスケープ）について

3-1. 拠点施設の配置計画について

ロードサイド景観における分析結果を踏まえ、拠点施設及び消防署の建築配置は、国道 153 号線からのセットバック線を共有、道路に対して並行配置を理想としつつ、天竜川側も同様に建築の向きや壁面線などをなるべく揃えることで、双方がメリットを得ることができる。



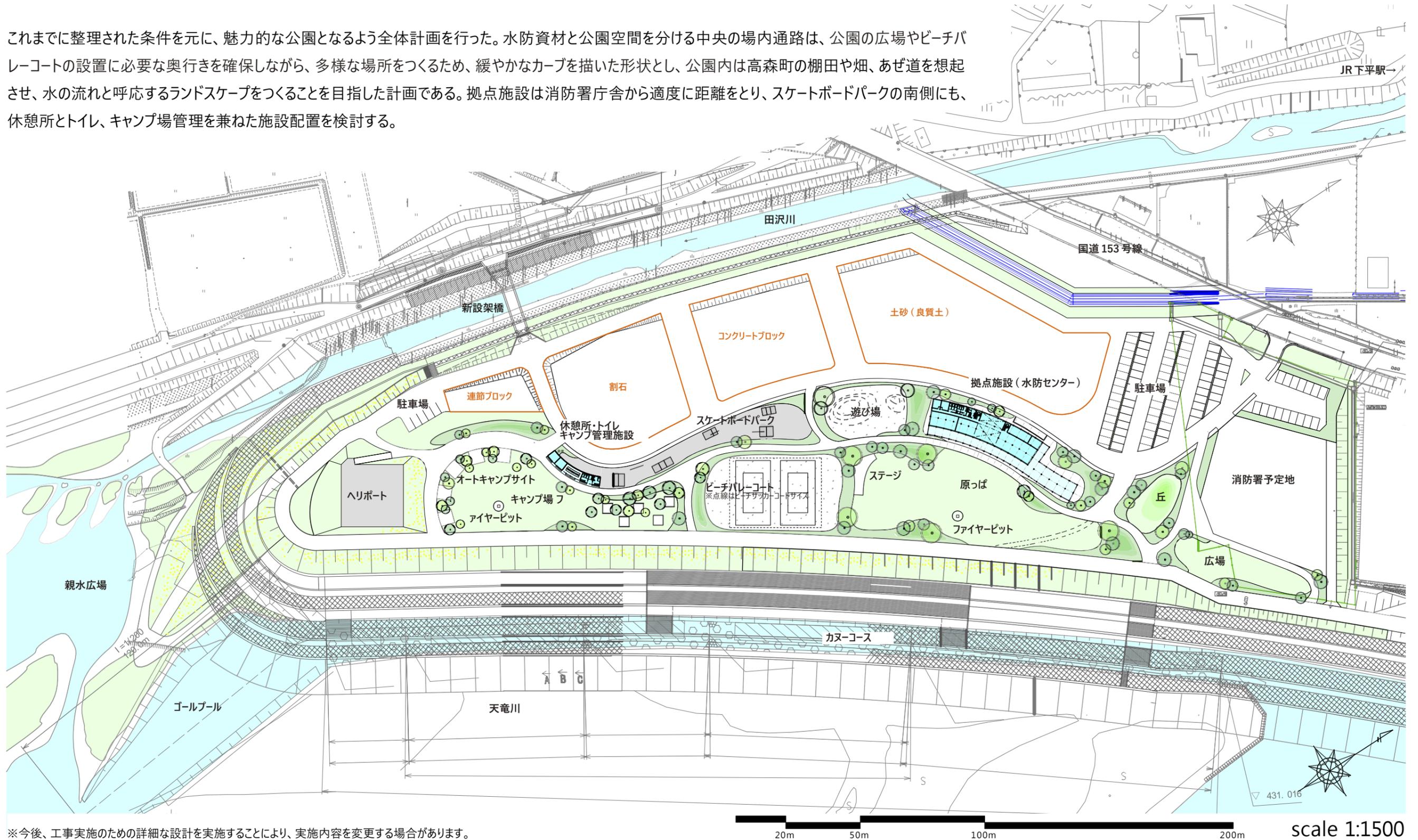
かわまちづくり計画地から竜神大橋方向を望む

かわまちづくり計画地から天竜川対岸、南アルプスを望む

3. かわまちづくり拠点の配置計画（ランドスケープ）について

3-2. 全体計画（案）

これまでに整理された条件を元に、魅力的な公園となるよう全体計画を行った。水防資材と公園空間を分ける中央の場内通路は、公園の広場やビーチバレーコートに設置に必要な奥行きを確保しながら、多様な場所をつくるため、緩やかなカーブを描いた形状とし、公園内は高森町の棚田や畑、あぜ道を想起させ、水の流れと呼応するランドスケープをつくることを目指した計画である。拠点施設は消防署庁舎から適度に距離をとり、スケートボードパークの南側にも、休憩所とトイレ、キャンプ場管理を兼ねた施設配置を検討する。



※今後、工事実施のための詳細な設計を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

20m 50m 100m 200m scale 1:1500

3. かわまちづくり拠点の配置計画（ランドスケープ）について

3-3. 配置計画図（案）

全体のランドスケープデザインは、対象地最大の魅力である、南アルプスや天竜川・伊那谷などによる大きな風景を感じつつ、高低差の豊かな高森町の棚田や畑、あぜ道をモチーフに、多種多様なゾーンを展開する。

⑦親水広場

田沢川からの水流を貯留した、せせらぎや浅瀬による親水空間とします。公園からのスロープから親水広場とカヌープールへアクセスします。

⑥キャンプ場

バーベキュースペースとオートキャンプ場は、両方を兼ねた雨天時も可能なサイトと、テントサイトを持つキャンプ場を整備します。こちらにも、ファイヤーサークルを設置し、キャンプを盛り上げると共に、夜空から日の出まで、河畔の自然を満喫することができます。

④砂浜

国スポに向けたビーチバレーコート4面として利用可能な規模とし、球技を実施する際は、川沿いに取り外し可能なフェンスを設置します。また、周辺より1.0mほど下げること、ボールだけでなく砂の飛散にも配慮します。

⑧広場

消防署西側は、訓練棟とともに、消防署の啓発活動と連携したイベントなどの開催が可能な、平坦な広場とします。

③原っぱ

拠点施設前の芝生広場は、様々なイベントが開催可能な、まちのひのき舞台として整備します。

②-3 練習用ビーチバレーコート

国スポまでは練習用ビーチバレーコートとします。

⑤スケートボード&BMXゾーン

S字の管理道路に沿うようなカタチで川まで続く、細長いスケートボード&BMXゾーンとして整備します。

南北に移動しつつ、様々なトリックを楽しむことができます。隣接する道路も同様に利用可能なものとします。

また、舗装と鏡面ガラスによるダンスゾーンなども設置します。

②-1 拠点施設まわり

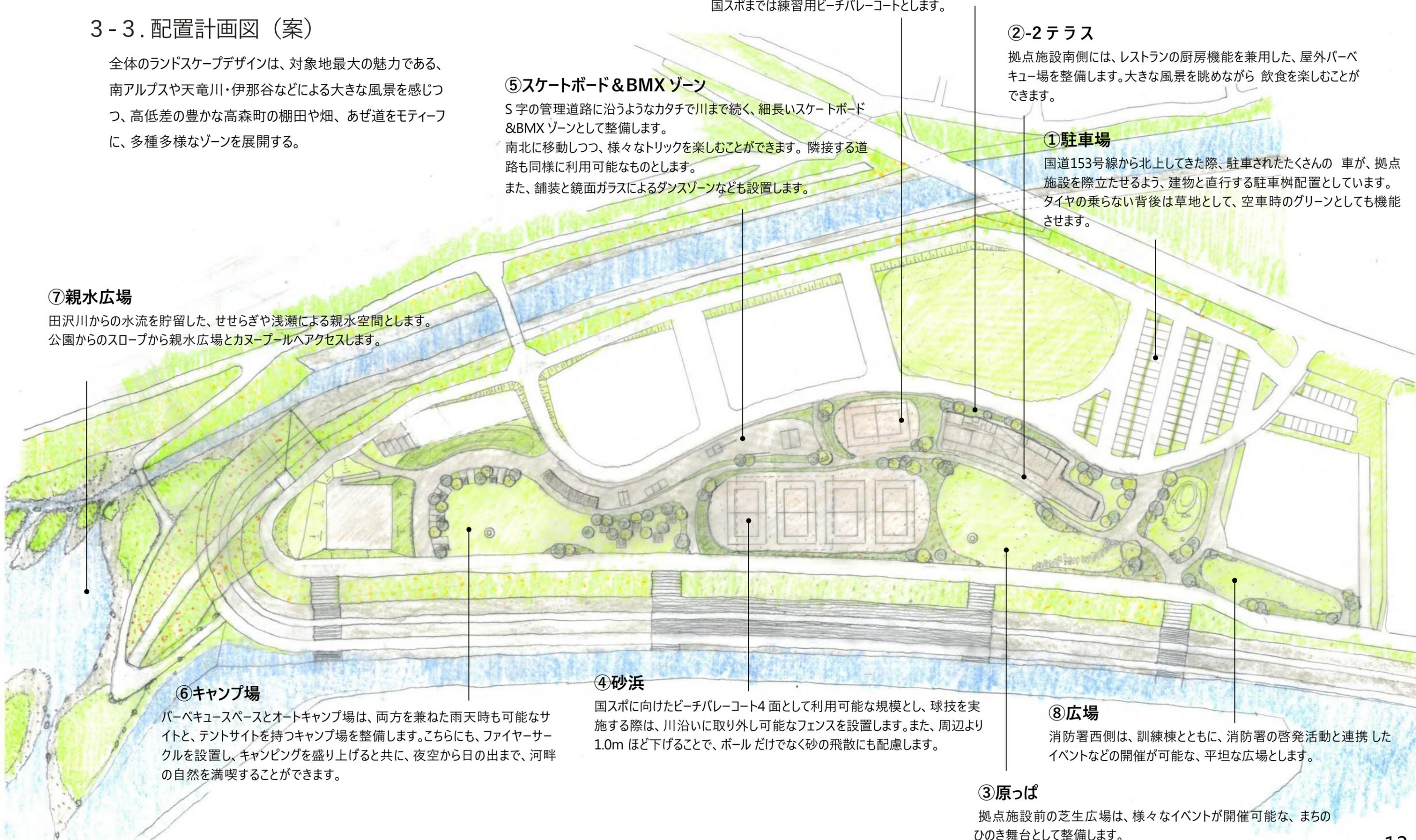
駐車場側は、立ち上がりの施設をなくし、国道からの顔となるよう、視認性を上げる。そしてシンボルツリーや季節の彩りを演出する低木地被類を配植します。

②-2 テラス

拠点施設南側には、レストランの厨房機能を兼用した、屋外バーベキュー場を整備します。大きな風景を眺めながら 飲食を楽しむことができます。

①駐車場

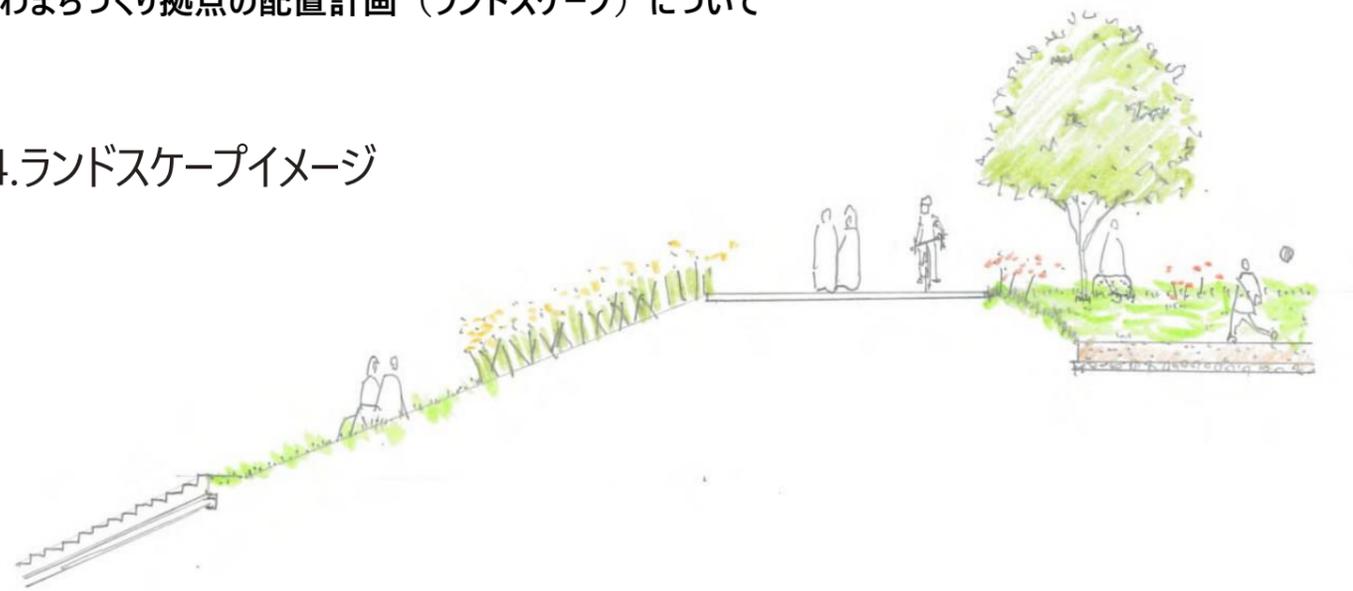
国道153号線から北上してきた際、駐車されたたくさんの車が、拠点施設を際立たせるよう、建物と直行する駐車桟配置としています。タイヤの乗らない背後は草地として、空車時のグリーンとしても機能させます。



※ベースの絵は検討初期段階のため、その後変更があります。

3. かわまちづくり拠点の配置計画（ランドスケープ）について

3-4.ランドスケープイメージ



公園部分は、天竜川の堤防と、一体となった空間となるよう整備します。



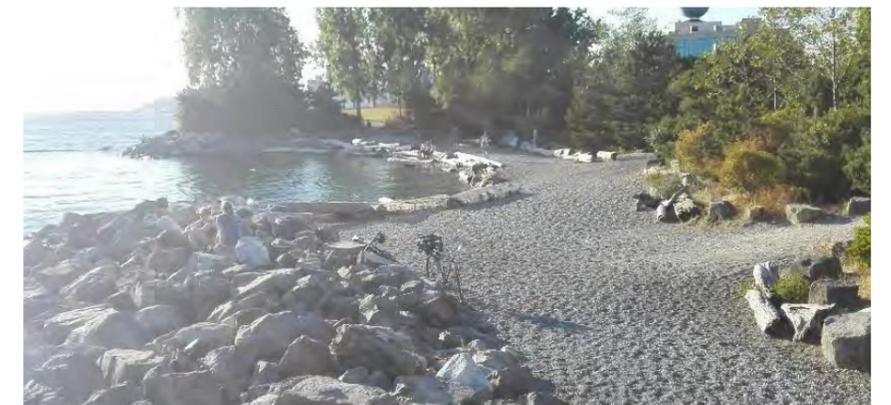
木陰には、天竜川の川石をカットしたベンチを配置し、自然素材に触れつつ、ゆっくりと過ごすことができます。



芝生地や草地では、ピクニックやキャンプが可能なものとしします。



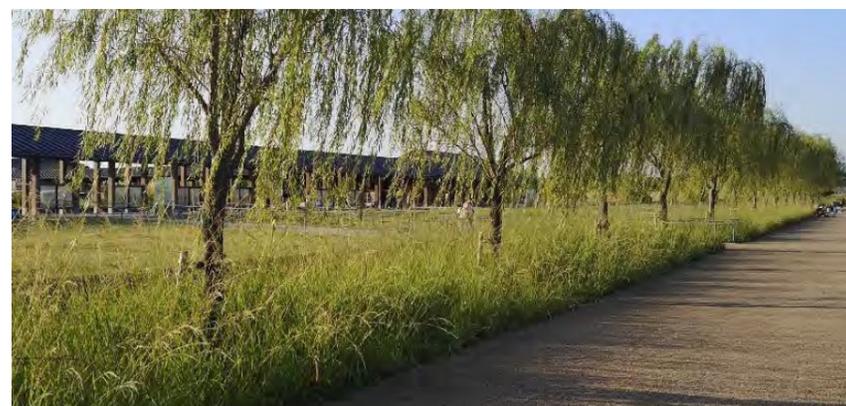
大きな周辺の風景と呼应しつつ、風対策にも利く、大小様々な地形変化により、この地域ならではの、居心地の良い場所を形成します。



天竜川内の親水エリアは、誰もが天竜川と親しめる場、リバーアクティビティから自然観察まで、様々な過ごし方ができる場とします。



国体に向けて整備されるビーチバレーコートやカヌーコースを活かしつつ、健康増進にもつながるの場所とします。



堤防や公園の草地は、播種や剪定時期を調節し、自然の植生を活かした、畦のような植栽とします。

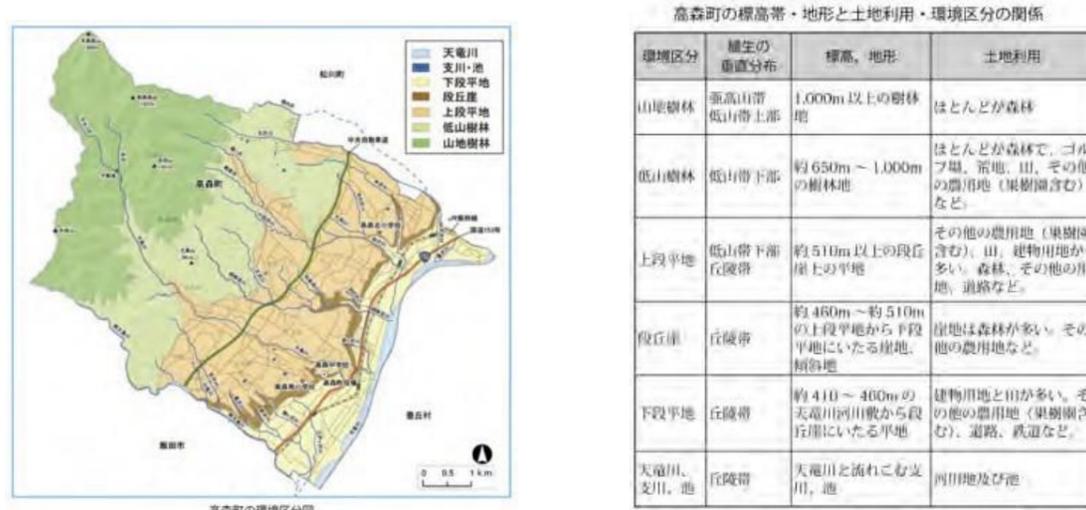


火のある公園として、キャンプにとどまらず、様々なアクティビティを展開します。

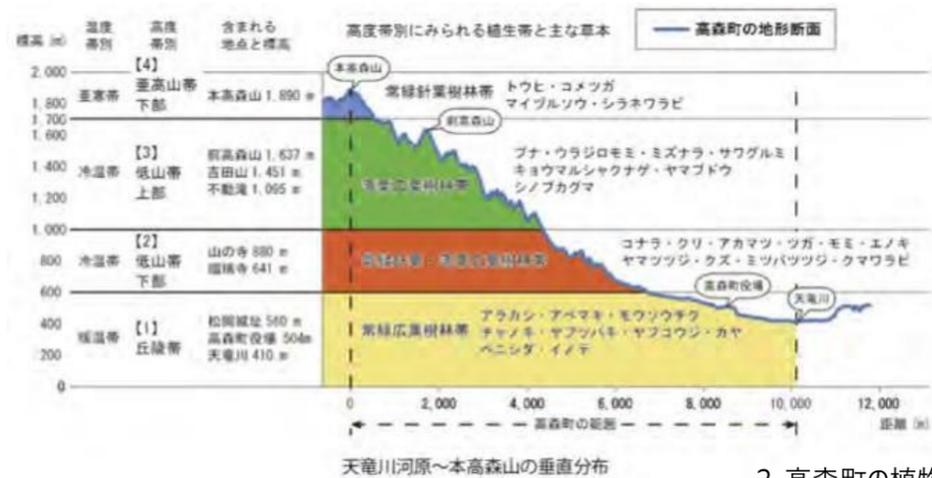
3. かわまちづくり拠点の配置計画（ランドスケープ）について

3-5. 天竜川の環境と風景の保全に適した植物等について

『高森町の動植物』(令和2年3月、高森町の動植物10分類3,881種を調査・収録した刊行物)から、「1. 高森町の自然概況」「2. 高森町の植物」を抜粋する。



1. 高森町の自然概況 より抜粋



2. 高森町の植物 より抜粋

上記二つの資料から、それほど広くない町域の北西の山々から、南東の天竜川にかけて、標高に沿った環境区分が見受けられ、それに応じた植生を把握することができる。計画地は、常緑広葉樹林帯に位置し、アラカシ・モウソウチク・アベマキなどの広葉樹木類、チャノキ・ヤブツバキなどの常緑中低木類、ヤブコウジ・ベニシダ・イノデなどの常緑低木、地被類や、河畔に見られやすいカヤ（イネ科）などの草本類が挙げられている。また、高森町役場の地域植生に詳しい方からヒアリングを行った。

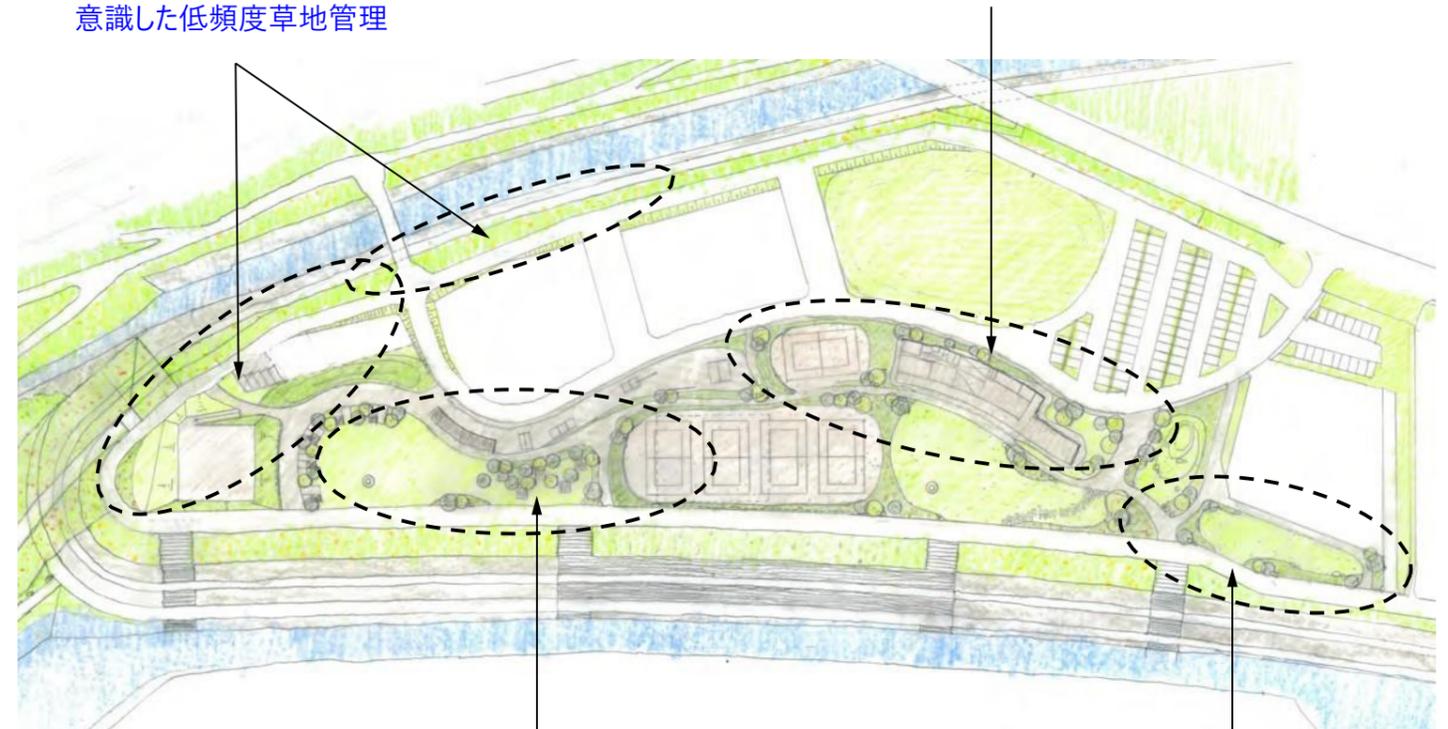
まとめ

計画地の植生や気候風土に馴染み、人の暮らしやアクティビティ&プログラムに利く樹種を選定していくものとする。計画地は、広大な河川沿いの敷地であるため、イニシャルコストやランニングコストに見合った、メリハリの利いた植栽を行う必要がある。特に計画地の大部分を占める草地環境は、維持管理の頻度により、様々な樹種や草丈となるよう調節することで、天竜川に自生する野草や草花をも取り込みつつ、様々な生物の生育環境となるよう整備していくことができると良い。

以下に、全体における大まかな植栽方針を示す。

ヘリポート周辺やのり面は高さを抑えつつ、粗放管理が可能な草地とする
チガヤ、チカラシバ等播種、コマツナギなど 在来種を意識した低頻度草地管理

賑わい拠点施設周辺は、高森町を代表する風景を形成。比較的丁寧に作りこむ
アカマツ、アベマキ、ヤマザクラ、ベニシダ、ミツバツツジ、ヤマブキ、張芝（目地無し）等



キャンプサイト周辺は、風よけや日陰となる 高木を中心とした植栽とする
クロマツ、アラカシ、サワグルミ、ヤマザクラ、張芝（目地張り）等

消防周辺は、風よけや日陰となる高木や草草が広がる植栽とする
クロマツ、アラカシ、シダレヤナギ、張芝（目地張り）、播種による低頻度草地

4. 関連計画（MIZBEステーション整備計画）について

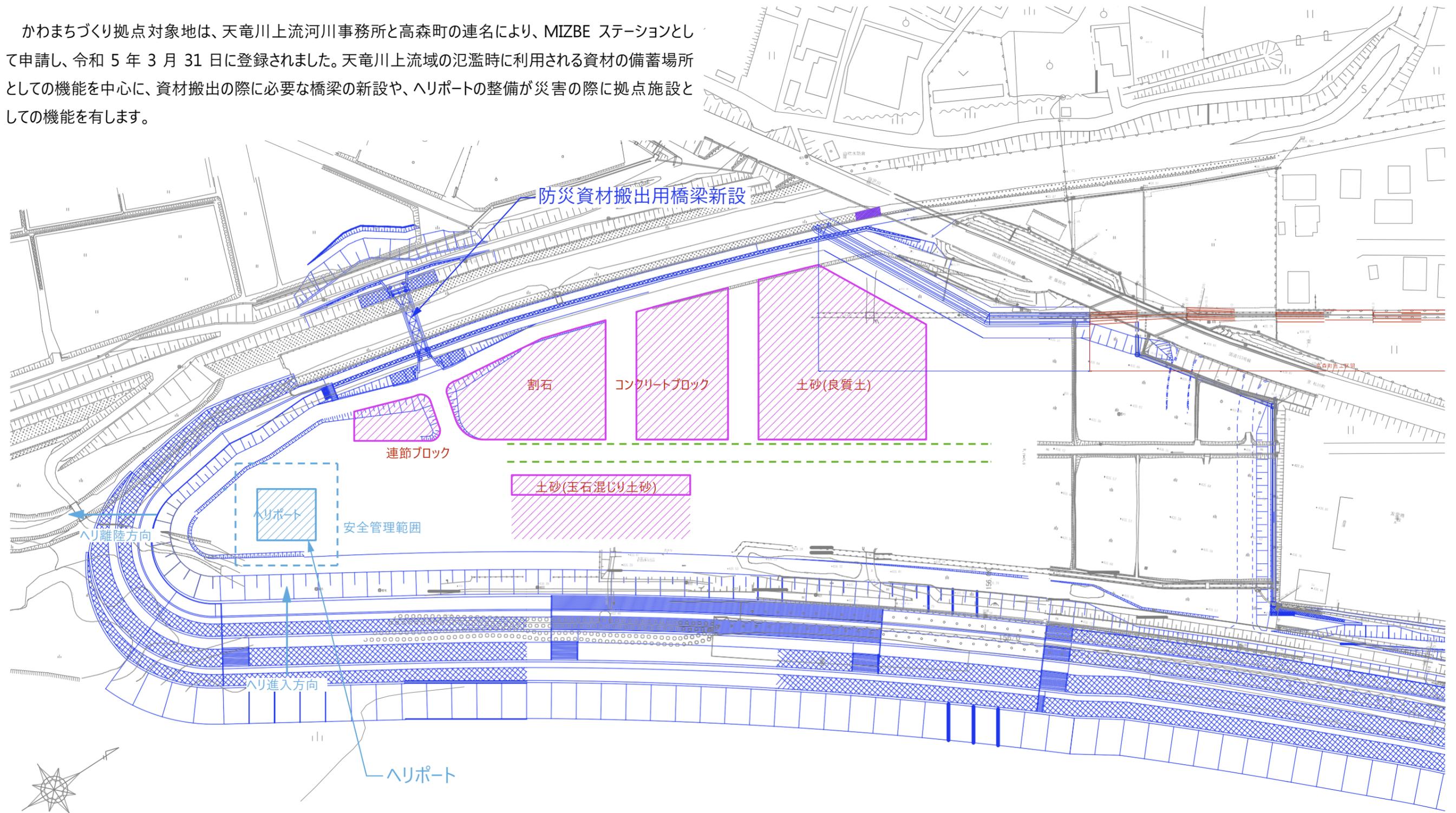
4. 関連計画（MIZBEステーション）について

MIZBE ステーションとは

- ◆河川防災ステーションは、災害時に緊急復旧活動や水防活動を迅速に行うための拠点となる施設。
- ◆河川防災ステーションの上面などを活用した平時における市町村等の取り組みにより、地域活性化や賑わいの創出が期待される河川防災センターを「MIZBE ステーション」として登録されます。
- ◆災害時と平時両面の機能を併せ持つMIZBE ステーションは、水防関係者や住民などあらゆる関係者に活用されることで「流域治水」推進の起点となり、また地域の賑わいの核として地域活性化を推進します。

4-1. 山吹地区 MIZBE ステーションの概要～

かわまちづくり拠点对象地は、天竜川上流河川事務所と高森町の連名により、MIZBE ステーションとして申請し、令和5年3月31日に登録されました。天竜川上流域の氾濫時に利用される資材の備蓄場所としての機能を中心に、資材搬出の際に必要な橋梁の新設や、ヘリポートの整備が災害の際に拠点施設としての機能を有します。

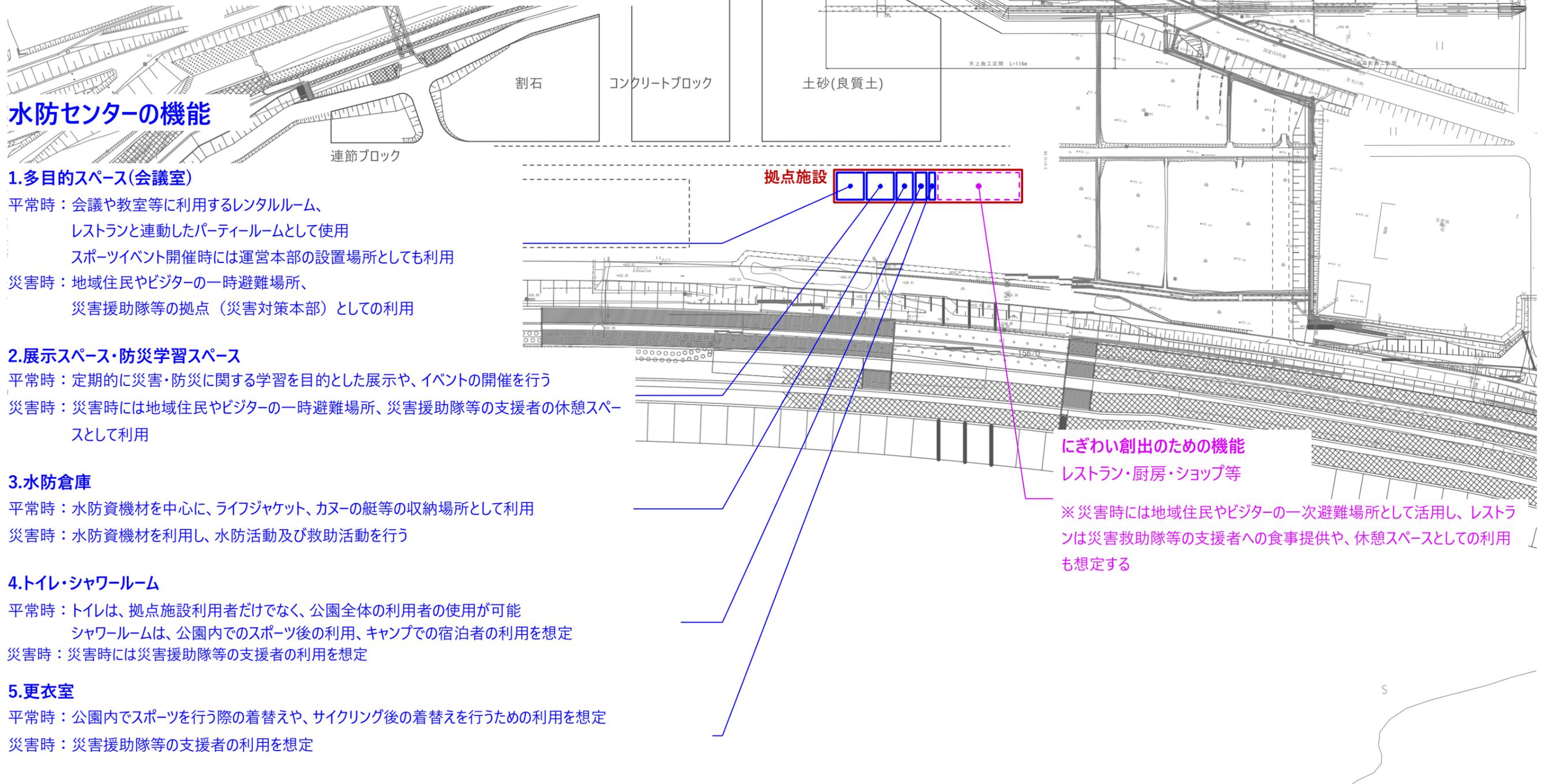


4. 関連計画（MIZBEステーション）について

4-2. MIZBE ステーションにおける水防センターの役割について

「MIZBE ステーション」には、主に災害時に水防活動及び救助活動を行うための拠点として水防センターを整備する。

水防センターは、平常時の賑わい創出のための機能（レストラン・厨房・ショップ等）を一つの拠点施設とし、また災害時には災害復旧活動や水防活動の拠点として活用できるように計画します。



水防センターの機能

1. 多目的スペース(会議室)

平常時：会議や教室等に利用するレンタルルーム、
レストランと連動したパーティールームとして使用
スポーツイベント開催時には運営本部の設置場所としても利用
災害時：地域住民やビジターの一時避難場所、
災害援助隊等の拠点（災害対策本部）としての利用

2. 展示スペース・防災学習スペース

平常時：定期的に災害・防災に関する学習を目的とした展示や、イベントの開催を行う
災害時：災害時には地域住民やビジターの一時避難場所、災害援助隊等の支援者の休憩スペースとして利用

3. 水防倉庫

平常時：水防資機材を中心に、ライフジャケット、カヌーの艇等の収納場所として利用
災害時：水防資機材を利用し、水防活動及び救助活動を行う

4. トイレ・シャワールーム

平常時：トイレは、拠点施設利用者だけでなく、公園全体の利用者の使用が可能
シャワールームは、公園内でのスポーツ後の利用、キャンプでの宿泊者の利用を想定
災害時：災害時には災害援助隊等の支援者の利用を想定

5. 更衣室

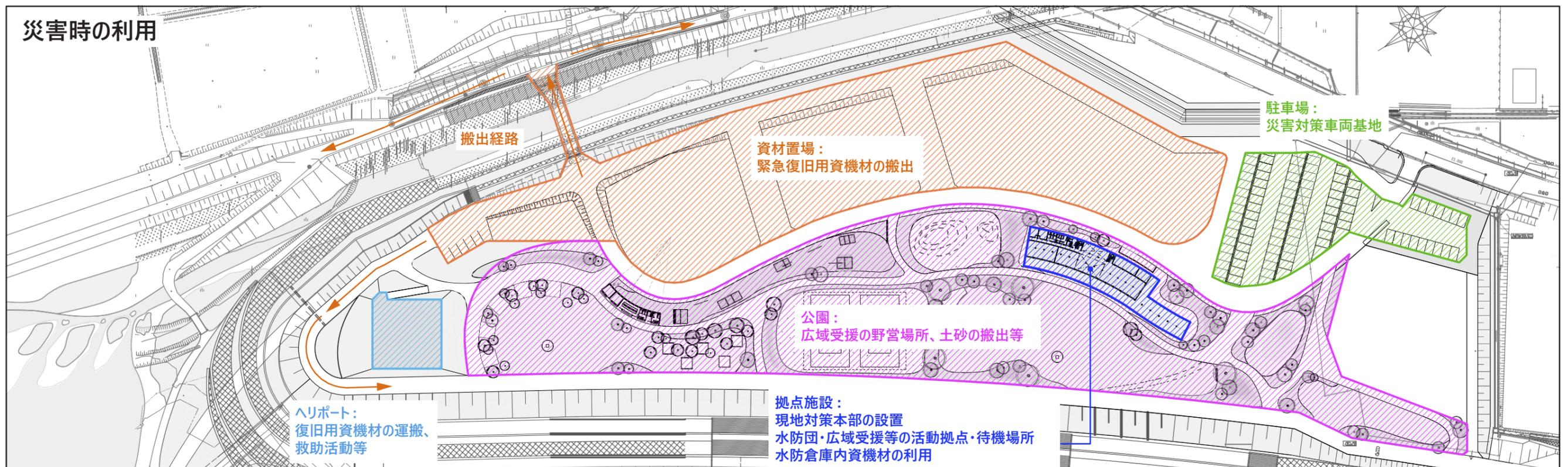
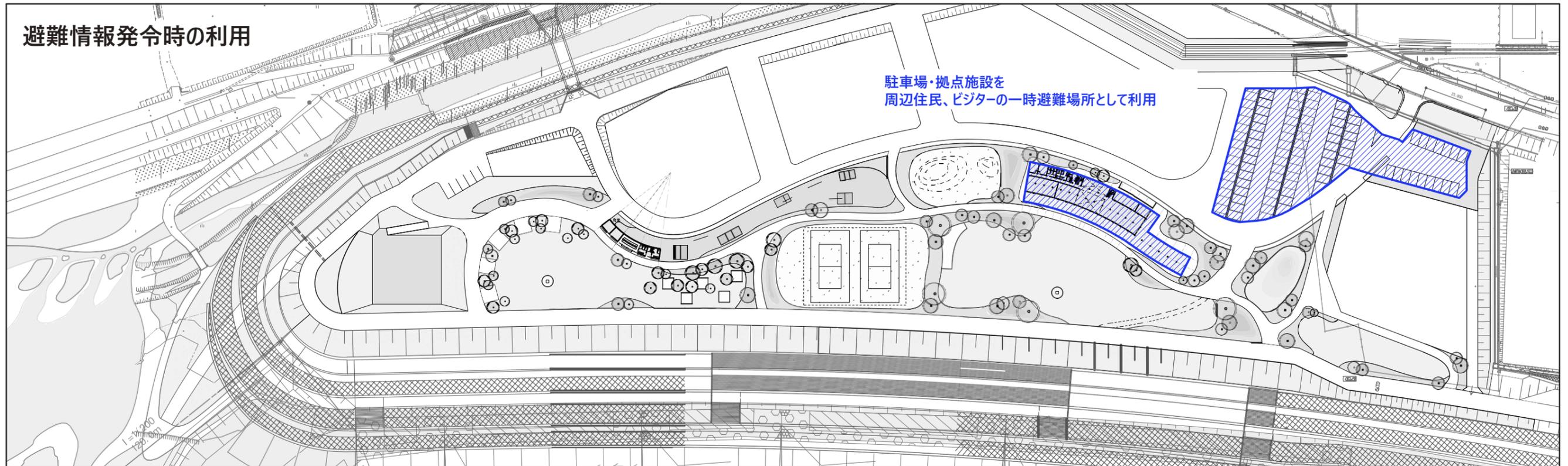
平常時：公園内でスポーツを行う際の着替えや、サイクリング後の着替えを行うための利用を想定
災害時：災害援助隊等の支援者の利用を想定

にぎわい創出のための機能
レストラン・厨房・ショップ等

※災害時には地域住民やビジターの一次避難場所として活用し、レストランは災害救助隊等の支援者への食事提供や、休憩スペースとしての利用も想定する

4. 関連計画（MIZBEステーション）について

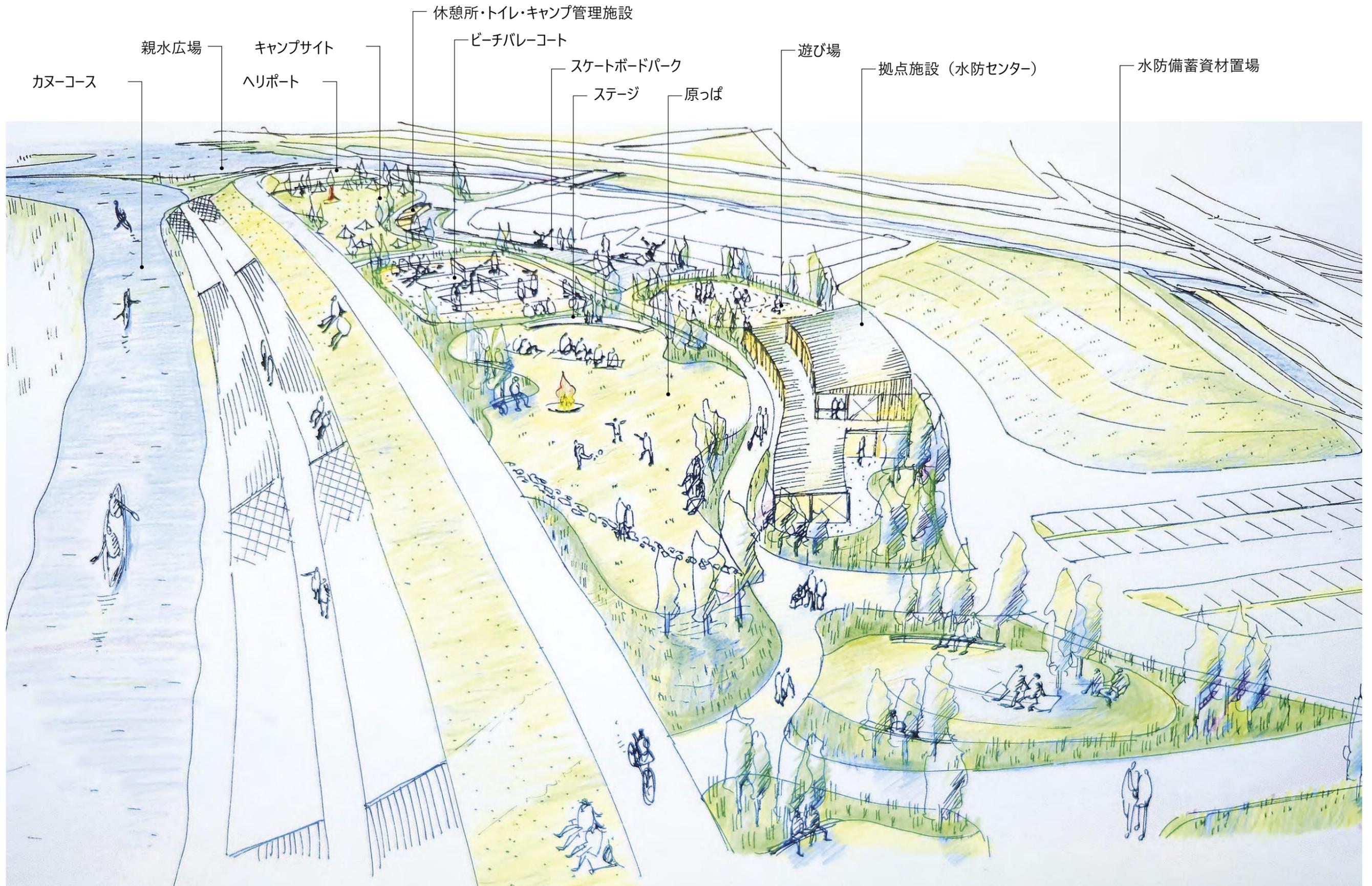
4-3. 緊急時の利用について



5. 供用開始後の利活用イメージと整備スケジュール

5. 供用開始後の利活用イメージと整備スケジュール

5-1. 供用開始後の利用イメージパース



5-2.供用開始までの整備スケジュール(案)

	2022年(R4年度)	2023年(R5年度)	2024年(R6年度)	2025年(R7年度)	2026年(R8年度)	2027年(R9年度)	2028年(R10年度)	2029年(R11年度)
賑わい拠点整備	基本構想策定	基本設計	実施設計	公園整備工事	施設建設工事		供用開始	
MIZBEステーション	整備計画策定 申請・登録	管理協定の調整	ハリポート・外構等 整備					備蓄資材の製作 配置完了(予定)
国民スポーツ大会 関連			基本設計	カヌーコース実施設計	整備工事	信州やまなみ スポーツ大会 プレ大会	信州やまなみ スポーツ大会 本大会	